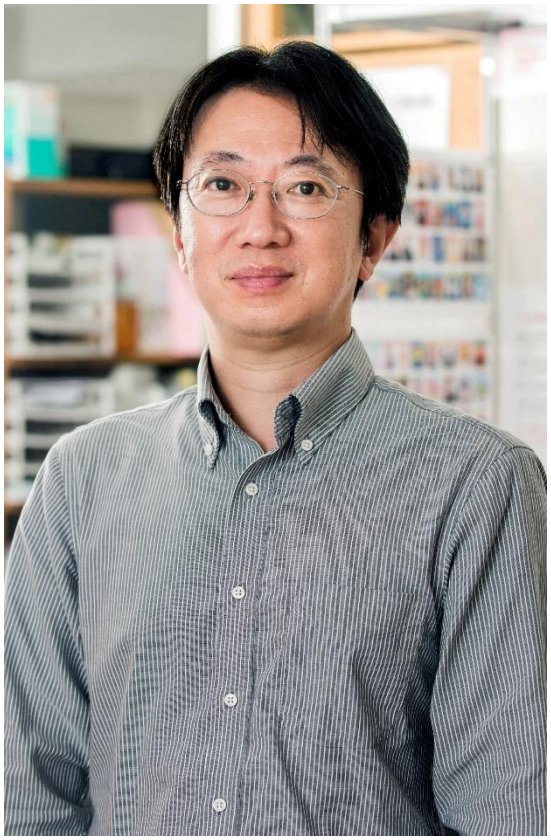
生活困窮者支援と気候危機

一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事
認定NPO法人ビッグイシュー日本共同代表
立教大学大学院 社会デザイン研究科 客員教授
稲葉　剛



撮影：横関一浩

稲葉 剛　プロフィール

1969年、広島県広島市生まれ。

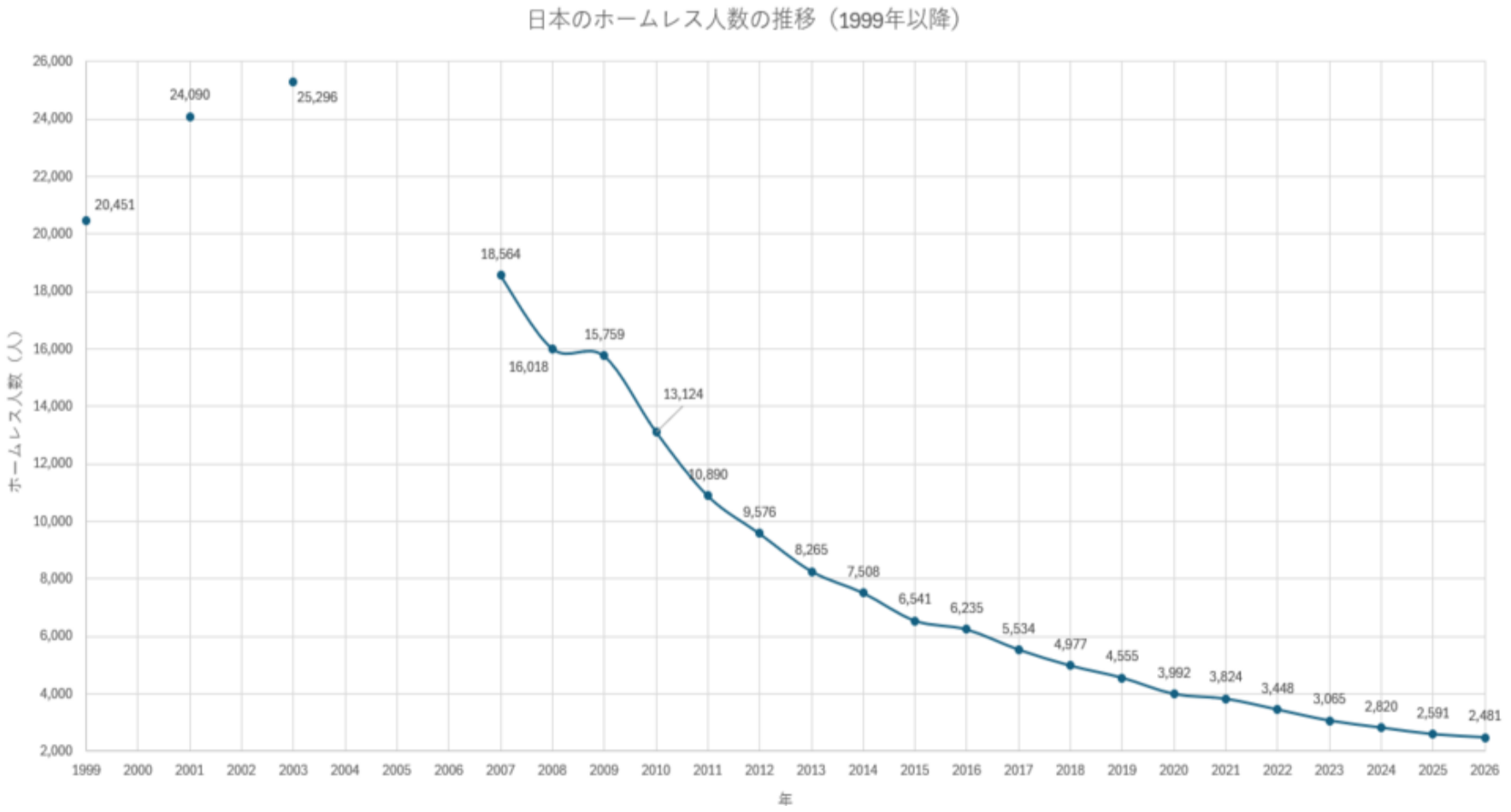
1994年より、新宿において路上生活者支援の活動に取り組む。
2001年、自立生活サポートセンター・もやいを設立。幅広い生活困窮者への相談・支援活動を展開。2014年まで理事長を務める。
2014年、つくろい東京ファンドを設立。代表理事に就任。
2019年、認定NPO法人ビッグイシュー基金（現・ビッグイシュー日本）共同代表に就任。

【現職】一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事。認定NPO法人ビッグイシュー日本共同代表。立教大学大学院客員教授。住まいの貧困に取り組むネットワーク世話人。いのちのとりで裁判全国アクション

【著書】『貧困パンデミック』（明石書店 2021年）、『閉ざされた扉をこじ開ける』（朝日新書 2020年）、『ハウジングプア』（山吹書店 2009年）、『コロナ禍の東京を駆ける』（共編著、岩波書店　2020年）『ハウジングファースト』（共編著、山吹書店 2018年）等

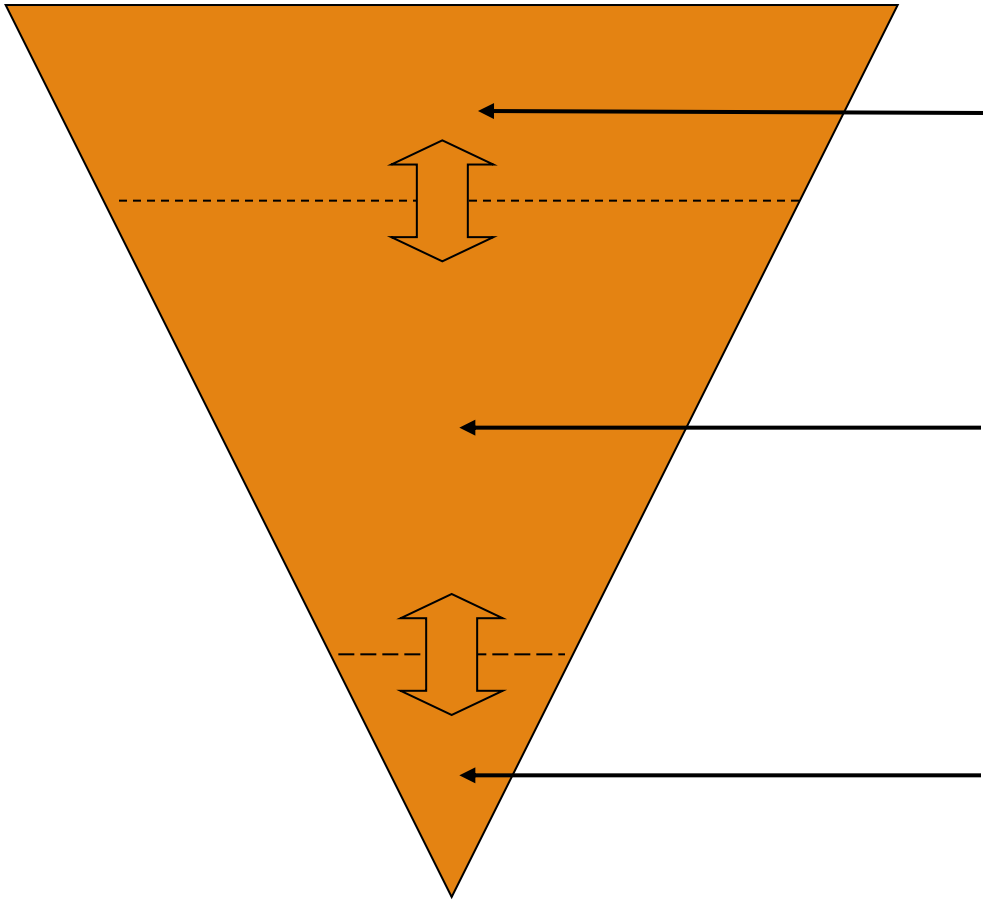
https://inabatsuyoshi.theletter.jp/

厚生労働省「ホームレスの実態に関する全国調査（概数調査）」より
2003年：25,296人→2026年：2,481人



https://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:ホームレス人数推移.png　　作者　Fnweirkmnwperojvnu

「ハウジングプア」の全体像



「家はあるが、居住権が侵害されやすい状態」

居住権を認めない賃貸物件（脱法ハウス含む）

会社名義の部屋等

「屋根はあるが、家がない状態」

ネットカフェ、ドヤ、サウナ、施設、病院、友人宅等。

海外では、この人たちも「HOMELESS」

「屋根がない状態」＝「ホームレス」

路上、公園、河川敷等　全国2,481人

ホームレスの実態に関する全国調査（概数調査）

結果について（令和8年1月厚生労働省調査）

民間団体による深夜の調査では約1.5倍～2倍

ネットカフェ等に寝泊まりする「住居喪失者」2017年 東京都調査

【表４　住居喪失不安定就労者等の推計値】

	推計値	オールナイト利用者中の構成比
①住居喪失者	約4,000人	25.8%
（内訳）		住居喪失者中の構成比
②住居喪失不安定就労者	約3,000人	75.8%
③住居喪失正社員	約200人	4.5%
④住居喪失自営業	約200人	4.9%
⑤住居喪失失業者	約300人	7.4%
⑥住居喪失無業者	約200人	5.7%

「住居喪失者」等のうち、30代38.6%、20代12.3%

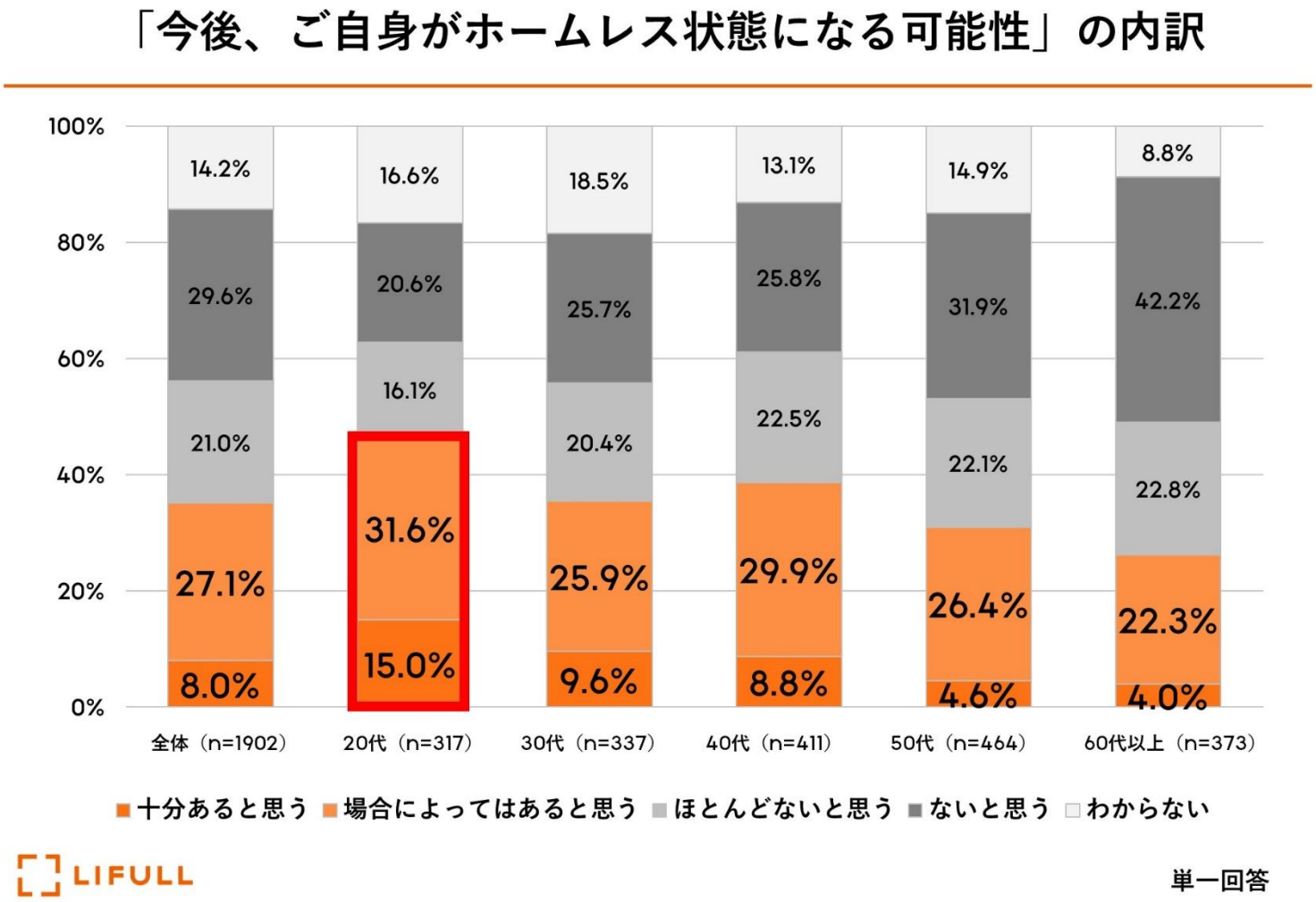
寝泊まりに路上を利用43.8%

平均月収11.4万円（不安定就労者の平均は12.0万円）

困ったことや悩み事を相談できる人：「いない」41.3%、「友人」35.3%、「親」3.9%

http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2018/01/26/documents/14_02.pdf

「ホームレス」に関するイメージと実感調査
株式会社LIFULLとダイバーシティサッカー協会の共同実施



https://lifull.com/news/34349/

2019年10月、台風19号
日野市の多摩川河川敷で高齢の路上生活者が死亡
台東区の避難所では路上生活者が排除される。



https://mainichi.jp/articles/20191019/k00/00m/040/075000c



10月15日、台東区長が謝罪。今後の避難所のあり方について支援団体と協議。

生活困窮者の猛暑災害の対応に関する調査

立教大学コミュニティ福祉学部教授の後藤広史教授が中心となった調査。

生活困窮者（ホームレス状態にある人々・生活保護受給者）の猛暑災害の対応を明らかにすることを目的として、都内各地で活動する支援団体（9団体）の協力により、炊き出し、アウトリーチ、相談活動の場でアンケート調査を実施。

■実施日：2024年8月17日～9月9日

■聞き取り者数439名／有効回答数418／有効回収率95.2%

■聞き取り地域：新宿、上野、池袋、浅草・山谷地域など



（私の視点）猛暑に苦しむホームレス　実態把握し、今から備えを　後藤広史

2025年1月15日 5時00分 有料記事

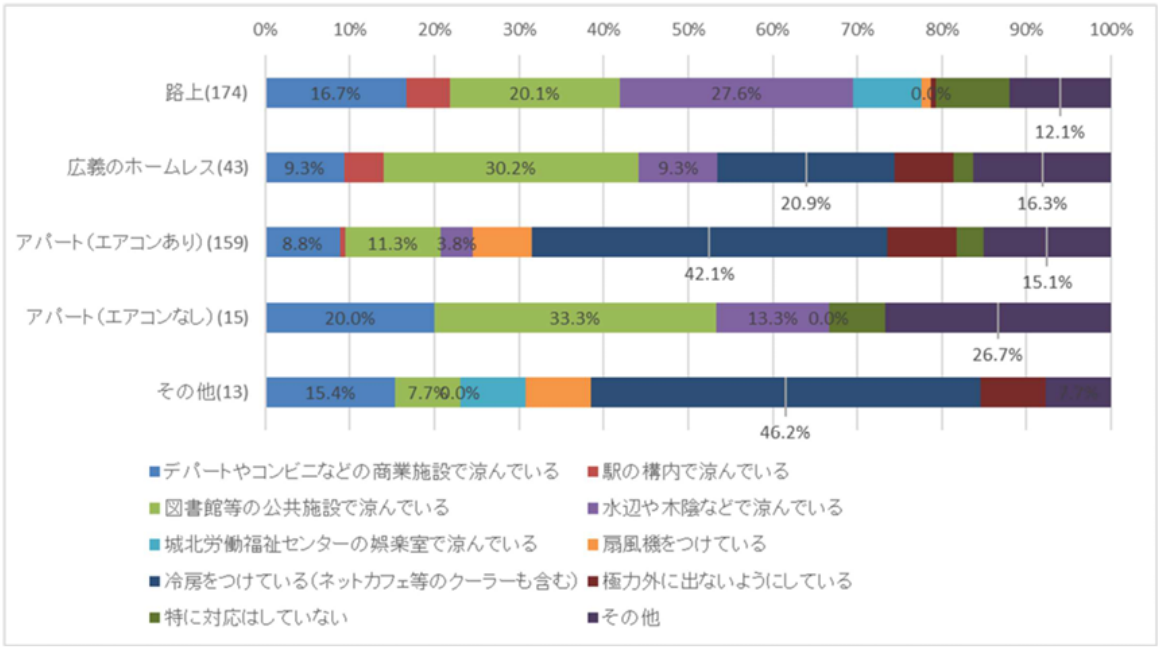
後藤広史さん

気象庁によれば２０２４年夏の平均気温の平年差は統計開始以来、西日本で最高、東日本では１位タイだった。総務省の統計では５～９月に熱中症で救急搬送された人が９万７５７８人と、０８年の調査開始以来最多に。死者も１千人を超えることが常態化し「猛暑災害」の状況だ。

猛暑災害への対応が特に困難なのがホームレスの人々だ。筆者は昨年、東京都内の複数の支援団体の協力を得て、ホームレス１７０人に猛暑の対応について実態調査をした。

https://digital.asahi.com/articles/DA3S16126248.html

＜暑い日の主な対応（日中）＞（主な寝場所ごとに分析＞）（%）

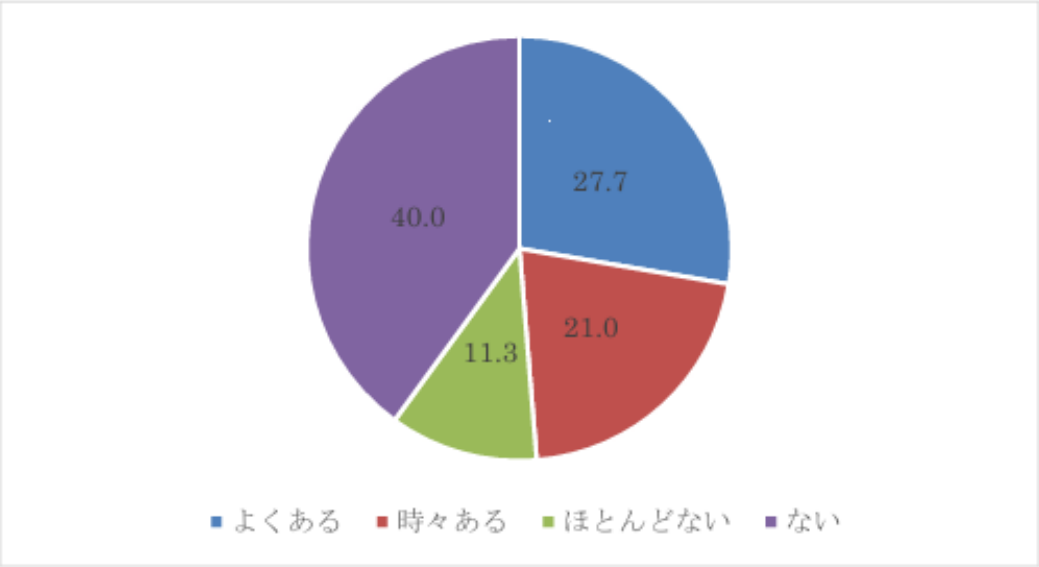


場所別のトップ３

路上	%	広義のホームレス	%	アパート（エアコンあり）	%
水辺や木陰などで涼んでいる	27.6	図書館等の公共施設で涼んでいる	30.2	冷房をつけている（ネットカフェ等のクーラーも含む）	42.1
図書館等の公共施設で涼んでいる	20.1	冷房をつけている(ネットカフェ等のクーラーも含む)	20.9	その他	15.1
デパートやコンビニなどの商業施設で涼んでいる	16.7	その他	16.3	図書館等の公共施設で涼んでいる	11.3

「過去に、デパートやコンビニなどの商業施設、駅の構内、図書館などの公共施設で涼んでいるときに管理者・店員・職員から退去を促された経験」については、「あった」が13.6%、「なかった」が55.1%、「そういった場所を涼むために利用したことはない」が31.3%。

＜光熱費を節約するために冷房の使用を控えた経験（主な寝場所で「エアコン」が使える環境にある方）（%）



（n=195）

・光熱費を節約するために冷房の使用を控えた経験については、「よくある」が 27.7%、「時々ある」が 21.0%、「ほとんどない」が 11.3%、「ない」が 40.0%。

・「よくある」と「時々ある」をあわせると、48.7%が光熱費を節約するために冷房の使用を控えている

＜夏の暑さで具体的に困ったこと＞（自由回答）より
電気代の高騰（6名）/飲み物、電気、ガス代がかかる。冬よりお金がかかる。/
仕事が減る、収入減、熱中症アラートが出ると仕事ができない。/2年前に知人が窓枠クーラーをくれたが、それまではエアコンのない部屋に10年暮らしていた。CWに相談したが、自分でお金を貯めて買ってくださいと言われた。

ビッグイシュー
路上販売

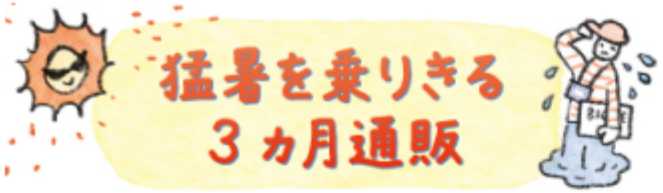
気候変動の
影響と対策











酷暑が続いた夏、ビッグイシューでは路上での仕事やくらしを応援するために、「猛暑を乗り切る３ヵ月通販（販売者応援３ヵ月通販）」のキャンペーンを立ち上げ、７月～９月の３ヵ月間で、約千人のお申し込みをいただきました。

空調服・日傘などの暑さ対策グッズやドリンク、塩飴、お風呂券などの配布に加えて、今回は７/15～９/14の間、雑誌の仕入れ価格を250円から200円に引き下げる取り組みにも挑戦。東京ではシェルターを２部屋増設し、２週間単位で宿泊できるように整備しました。

雑誌の販売者からは「休憩時に、飲み物を一本買うのにためらわなくなったのは大きかったね」「今日はシェルターで休んで、明日仕切り直そうと考えられた」といった声がありました。
また事務所には、温かなメッセージがそえられた衣服や食料品、汗拭きシートやタオルなど、さまざまな物品寄付による応援が届き、販売者、スタッフともども元気をいただきました。物心両面でのサポート、本当にありがとうございました。

暑い季節が抜け、朝晩は冷え込みを感じるようになりました。現在は大阪・東京の両事務所で、長袖のTシャツ、上着やズボンなど秋冬物衣料の寄付を募集しています。引き続きのご参加、どうぞよろしくお願いします。

https://bigissue.or.jp/2026/10/2026102301/

求められる対策

樹冠被覆率の向上。

猛暑時に誰でも立ち寄れるクーリングシェルターを整備する。

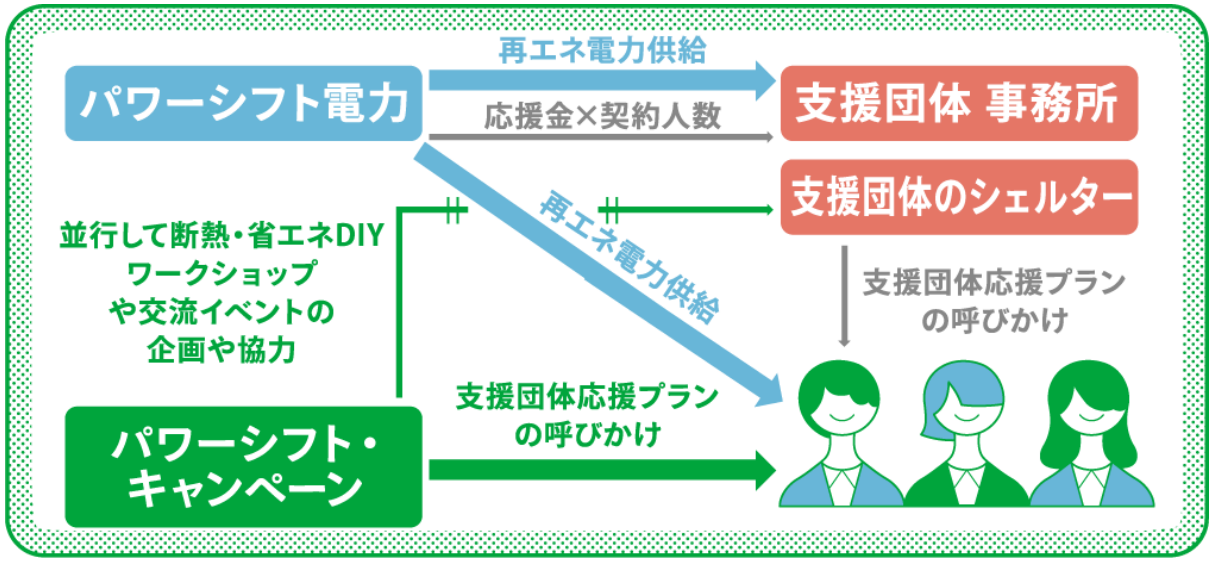
生活保護の夏季加算の創設。

生活保護の住宅扶助基準（東京のほとんどの地域で上限53700円）の引き上げ。現状では住宅扶助基準が低すぎるため、管理費・共益費名目で、生活費が削られ、エネルギー貧困の要因になっている。

エアコン購入費補助をおこなう自治体は増えてきたが、故障時などにも対応できる仕組みが必要。

生活困窮者も再生可能エネルギーを利用できたり、断熱性の高い住宅に暮らせるための支援。公営住宅の増設。

パワーシフトHOMEプロジェクト



つくろい東京ファンドでは、2025年から「社会正義・気候正義実現のために『社会的弱者こそ、再エネを中心とした電力を使える社会』を実現する」ことをめざす「パワーシフトHOMEプロジェクト」に参加しており、事務所や一部のシェルターの電気契約を再エネ新電力の「グリーンピープルズパワー（GPP）」に切り替えています。GPPでは、つくろい東京ファンドの活動で使う電気代を応援する「GPPほどける応援基金」という仕組み、も作ってくれています。
2025年にはプロジェクトの一環として、事務所の「簡易断熱DIY」をシェルター利用者とともに行いました。

https://tsukuroi.tokyo/2026/07/25/3016/

参考文献一覧

「猛暑災害と生活困窮者ー脆弱性と対策の必要性」 後藤広史 『都市問題』第115巻第8号　2024年8月

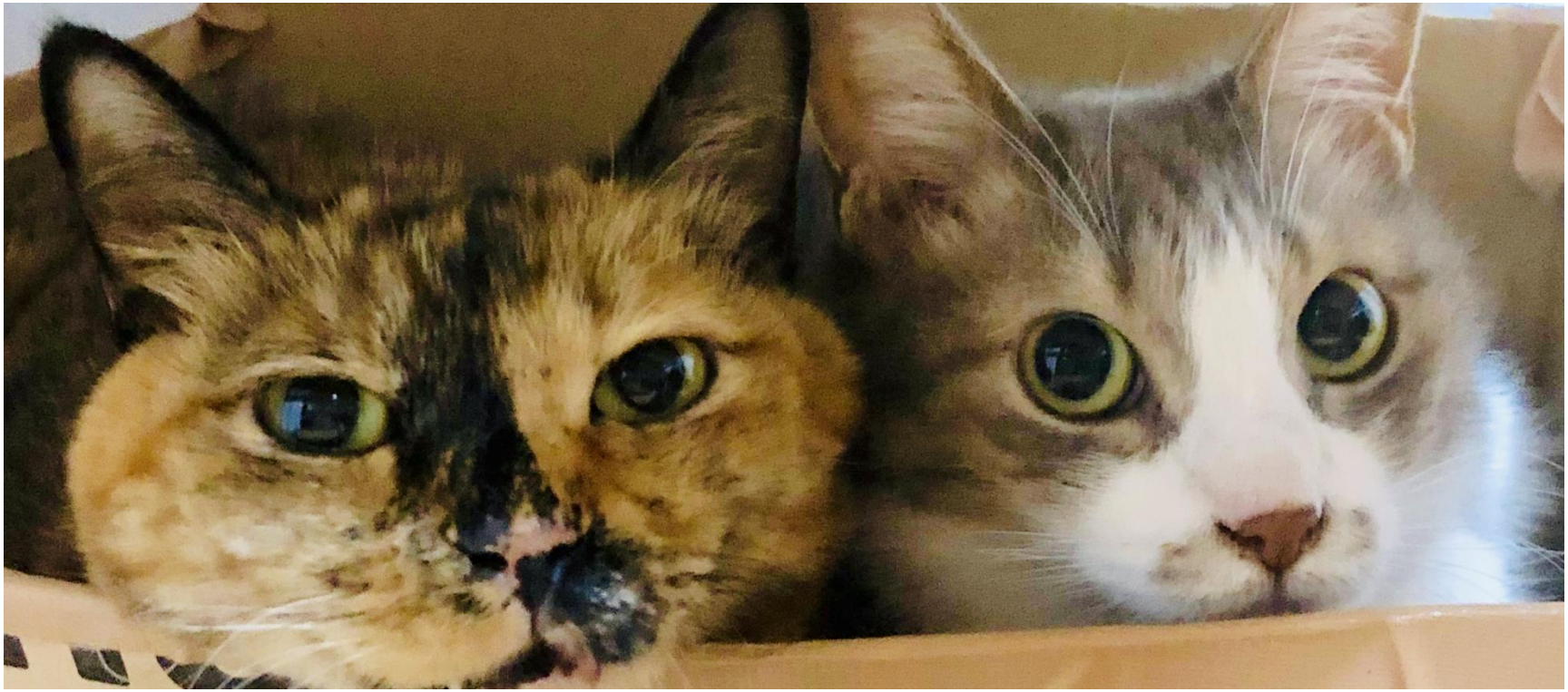
「猛暑の中の路上生活者－冷却空間のアクセスと自己抑制」 後藤広史, 柴谷涼 『賃金と社会保障』1896号 2026年4月

『ハウジングプア』 稲葉剛　山吹書店・JRC　2009年

『ハウジングファースト』 稲葉剛・小川芳範・森川すいめい編　山吹書店・JRC　2018年

『閉ざされた扉をこじ開ける』 稲葉剛　朝日新書　2020年

『ルポ　支援という生き方』 室谷明津子　ちくま新書　2026年



ご清聴ありがとうございました。